

GPT-5.5：知財実務への革命的インパクトと活用戦略



コードネーム「Spud (じゃがいも)」：
初のフル再訓練モデル
GPT-4.5以降のベースモデルからの再設計により、
エージェント的な自様実行性とコーディング
能力が飛躍的に向上しました。

1M (100万) トークンの
広大な記憶容量
API経由で100万トークンのコンテキスト
ウィンドウを標準提供。膨大な特許公報や
拒絶理由通知の一括参照が可能になります。

Intelligence Index v4.0で
首位の「60」を記録
Artificial Analysisの評価で、Claude Opus
4.7やGemini 3.1 Proを上回り、現時点で
最高知能のモデルと評価されています。

競合モデルとの三つ巴比較

	GPT-5.5 Pro	Claude Opus 4.7	Gemini 3.1 Pro
AA Intelligence Index (総合知能)	60 (Top)	57	57
Terminal-Bench 2.0 (端末操作)	82.7% (Top)	69.4%	68.5%
Humanity's Last Exam (純粋接論)	44.3%	46.9% (Top)	44.7%
MMMLU (多言語QA)	83.2%	91.5%	92.6% (Top)
API価格 (入力/出力 1M)	\$30 / \$180	\$5 / \$25	\$2 / \$12

知財実務への4つの具体的インパクト



明細書ドラフティング
の高度な自動化
構造化文書の一貫生成に
従って、請求項（クレーム）の
多段階構築や業態形態の自動
作成において弁理士の強力な
下書き支援となります。



拒絶理由通知への
対応効率化
1Mトークンの容量により、
拒絶理由通知、引用文献、自
社特許書をすべて同時参照し、
退歩性の主観（審査要旨の
抽出など）を支援します。



IPランドスケープの
自律分析
数万件の特許記録、クラスタ
リング、M&A候補選定までを
単一のエージェント・ループ
で完結させ、分析時間を数
週間から数日へ短縮します。



調査・査読時間の削減
ウェブ探索能力
(BrowseComp 90.1%)
により、先行技術調査に
おける査読時間を約66%
削減できる可能性が
示されています。

法規制と実務導入ロードマップ

弁理士法75条への留意
AIの回答をそのまま鑑定として提供す
ることは弁理士による非弁行為のリス
クがあるため、常に弁理士の監督と最終
責任が必要です。

Phase 1：評価（30日以内）
データガバナンスポリシーを確定し、
現行案件で苗世代モデル（GPT-5.4）
との品質比較を実施します。

Phase 2：パイロット（120日以内）
知財特化型ツール（Solve Intelligenceや
Torero等）の導入を評価し、API実コスト
を測定します。

Phase 3：定着（180日以降）
知財権員の「AI監督責任」を請負定義に
反映し、生産性測定ダッシュボードの運
用を開始します。

